

記入例(増築の場合)

安全計画書				Ⅲ 基本的な施工計画		
I 工事計画概要				1. 工事施工手順の概要(概念図)		
1. 工事名称	〇〇病院増築及び改修工事			<p>建物の全体形状を示す簡単な平面図・断面図等を用いて、どの部分を使用するのかをわかりやすく表現する。 詳しくは別添図面や工程表に記すことになるため、ここでは工事の全容を概念的に示すものでよい。</p>		
2. 工事場所	四日市市〇〇町△△番					
3. 工事種別	増築及びこれに伴う既存棟の改修					
4. 建物概要 ()内の数字は既存棟を示す	イ 用途	病院	ロ 構造			鉄筋コンクリート造
	ハ 高さ	軒の高さ 25.5m(35.75m)	最高の高さ			28.5m(36.35m)
	ニ 階数	地上 6(8) 階・地下 1(0) 階・塔屋 0 (2) 階				
	ホ 建築面積	6,086.8(13,558.24) m ²	ハ 延べ面積	17,166.8(48,032.89) m ²		
5. 昇降機・建築設備又は工作物の概要	非常用照明、誘導灯、自動火災報知設備、スプリンクラー設備、 屋内消火栓設備 <p>避難施設等に係る工事がある場合のみ内容を記入する。</p>					
II 仮使用認定申請部分				2. 工事区画の位置及び構造	別添図面に(工事区画の位置は朱線で)表示 配置図または仮設計画図及び各階平面図に仮使用部分と工事部分との仮使用区画の位置とその構造を表示する。	
1. 仮使用部分	別添図面に(黄緑色)で表示			3. 工事工程	別添工事工程表に表示 工程概要は、全体工程表の中で、仮使用部分と工事部分の相互の安全性を図るために、どのような手順と期間を要するものであるかを記す。	
2. 用途	病院	3. 申請面積	概ね 17,167 m ²	4. 工所用資材等の搬出入及びその管理方法		
(注意)				搬出入:別添図面参照 <p>配置図または仮設計画図に矢印で表示し、同時に使用者動線、工事関係者出入口、資材搬出入経路が十分に区画されていることを表現する。</p>		
				管理方法 ①工事施行範囲と、使用している部分の区画を明確にし、外部に一次仮置場を設ける。 ②上階搬入のために荷物用(非常用兼用)エレベーターを使用するので、一般使用と分けて、夜間20時以降及び休日とする。 ③可燃用資材等は必要最小限の搬入とし、一か所当たりの総量も大きくならないよう分散配置を心掛ける。 ④工事現場内の整理整頓を心掛け、残材、ゴミ等は1日の作業終了後、外部へ搬出する。		

IV 工事により機能の確保に支障を生じる避難施設等その他の安全施設等及びその代替措置等					
	種 類	箇 所	工 事 期 間 及 び 時 間	代 替 措 置 の 概 要	管 理 の 方 法
1. 避 難 施 設 等	イ 廊下その他の通路	3階避難経路変更	仮使用期間	仮設仕切により専用経路を確保する。	従業員への連絡を徹底する。
	ロ 直通階段等	3階で一カ所のみ階段使用不可	仮使用期間	別の階段で避難する。現行法規を満足できる。	避難経路図を表示し、従業員への連絡を徹底する。
	ハ 地下道等	支障なし			
	ニ スプリンクラー設備等	3階図示部分作動不可	仮使用期間	消火器を重点配置し、初期消火に努める。	作業中及び終了後の店内巡視を行う。
	ホ 排煙設備	3階図示部分作動不可	仮使用期間	消火器を重点配置し、初期消火に努める。	
	ヘ 非常用の照明装置	3階図示部分作動不可	仮使用期間	懐中電灯を設置する。	
	ト 非常用の昇降機	該当なし			
チ 防火区画	3階防火シャッター取替中、A, B間の区画が成立しない。	○月○日～○月○日	工事部分を耐火1時間構造の仮囲いで区画する。	この部分の工事を優先して行い、仕上工事中にはシャッターが作動できるようにする。	
2. そ の 他 の 安 全 施 設 等	イ 消防用設備等 (1に含まれるものを除く。) 自動火災報知設備	仮使用部分全域	全工事期間中	仮設の感知器、火災報知器を設置する。	
	ロ 非常用の進入口	該当なし			
	ハ その他	該当なし			

V 出火危険防止(火災発生のおそれのあるものに限る)			
	種類	集積又は設置方法	管理の方法
1. 火 気 使 用	ガス切断機 トーチランプ	移動式専用カートへボンベを固定し、非使用時は一定場所へ収納する。 安定した平坦な場所で使用し、非使用時は一定場所へ収納する。	使用責任者名を表示した火気使用許可証の発行、取付け、有資格者証携帯の義務付けを行う。また、使用時には、巡回及び点検を行う。
2. 危 険 物 等	イ 危険物 接着剤、塗料、有機溶剤	施錠できる平坦な一定場所に集積する。 必要量のみを開缶する。 高積みをさける。	集積場所、量を指定する。 重責場所に使用責任者、集積物の内容、量を表示する。 火気厳禁の表示をし、従業員への教育を徹底する。
	ロ 可燃性工事用資材 木材・クロス	一定集積場所に散乱ないように整理して置く。	火気を遠ざけた一定集積場所を指定し、搬入数量を把握する。
3. 機 械 器 具	アーク溶接機、高速カッター、 ハンマードリル、コンプレッサー等	一定集積場所に散乱ないように整理して置く。 非使用時の2次電線以降の一定場所への収納・接地を行う。	機器搬入時に性能点検を行う。 電気工事有資格者による配線・結線を行う。 使用責任者名を表示した機器使用許可証の発行・取り付けを行う。 有資格者証の携帯を義務づける。 防火養生を義務づける。 使用時の巡回、点検を行う。

VI 防 火 管 理 体 制	1.	イ	①火気を使用する場合、その都度防火管理者に届出すること。 ②火気を使用する場合は、火花受け等の防護措置及び消火器等を準備し、実施する。 ③火気使用後の点検は、防火担当者が必ず実施し、防火責任者に報告すること。 ④喫煙は指定された場所で行うこと。 ⑤作業時間外に作業する場合は、責任者の承認を得て行うこと。 防火管理者：〇〇〇〇 防火担当者：△△△△ 火元責任者：使用地区 □□□□、工事地区 □□□□	2. 災 害 発 生 時 の 対 策 及 び 自 衛 消 防 組 織	①自衛消防組織及び任務表
	1.	火災予防対策	①火気器具は指定された場所以外では使用しない。 ②喫煙は指定された場所で行うこと。 ③工事部分との防火区画付近には可燃物を放置しない。 ④使用部分の廊下、階段、外部通路には物を置かず、常に避難ルートを確認する。 避難口については、避難方向に対して開錠可能な状態を保つ。		
	3.	連相工使用 絡互事用 体の部部 制の分分 とのとの	①防火管理者は防火担当者との連絡会を隔週実施するものとする。 ②工事部分と使用部分との日常における相互連絡は相互の携帯電話等により事態の発生時の通報を行う。 ③非常時には常に携帯している携帯電話を利用し連絡を取る。(連絡先は複数確保)		
	4.	実教育 施育 状・況 況・訓 練の練 の	①朝礼時及び連絡会において、作業所内作業員に連絡・教育を行う。 ②使用地区では、必ず来場者と同行し、火災予防に努める。 ③使用地区では、接客係含む全員に火災予防、非常時避難の教育・訓練を行う。		

